

5月7日(月)

今日の力

2012年5月7日～5月13日

翻訳 斉藤雅子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

へりくだった奉仕

聖書朗読 ヨハネ 13:12～27

わたしがあなたがたにしたとおり、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。 ヨハネ 13:15

あなたが誰かの足を洗うとして、その人に対する思いやりの情を抱かずに足を洗うことは可能でしょう。イエス様は、他人の足を洗うというへりくだった愛の奉仕の真髓を、身をもって示してくださいました。他者に仕えること、また他者の苦しみを和らげるために行うべきへりくだりの奉仕がどういうものであるかを教えてくださいました。己を忘れ、自分の名誉や高位を求めるのではなく、他者に仕え、助け、困窮する者、病に伏せる者、不遇な目にあっている者、評判のよくない者を探し出し、その友となり、助けとなる者は、イエス様が弟子たちの足を洗う奉仕を通して示された愛を体現する者になるのです。

つまり、弟子たちの足を洗うことでイエス様が示されたのは、その行為自体の大切さではなく、イエス様が弟子たちに実行して欲しいと願った道義的な本質でした。この道義的な本質は、自分を無にし、卑下する中で愛として示されるものなのです。この愛は、清め、浄化するものです。ちょうど母が子に対して抱く愛のように、医師が患者に対してみせる気遣いのように、教師がその教え子に対して払う気配りのように、これらの行為はとても謙虚なものであり、時には示すのが難しくとも、愛のゆえに示されるものです。

神に対する愛と他者に対する愛は、灰色で暗澹とした雲が夕焼けの光線でその姿を変えるがごとくに、ごくありきたりな奉仕をととても素晴らしいものに変貌させることができるのです。

讃美歌 461

祈り 愛する御父様。あなたに栄光と栄誉を帰することができるように、私たちが他者を愛し、仕えることができるように助けてください。

イエス様の御名により。アーメン。

ビル・タイナー

テネシー州 ヘンダーソンヴィル

5月8日(火)

私 が 道 で す

聖書朗読 ヨハネ 14:5~7

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。 マタイ 11:28

教師をしている私は、しばしば、授業やセミナーの第一声を次のフレーズで始めています。「私たちは、たくさんの物語に囲まれて暮らしています。そしてこれらの物語の一つ一つがまるで競うように私たちの心を捉えようとしています。』実際にそうなのです。私たち一人ひとりが、ある物事には、その背景としてより大きな意義や目的があるのではないかと探しています。それは誰かのある行動の裏に隠された物質主義的な側面かもしれませんし、自己陶酔症的な側面かもしれませんし、その他の様々な主義主張、あるいは神の物語が潜んでいるのかもしれません。

イエス様は、私たちの生活のあらゆる側面に深く影響する意義を探求することについて、最終的な発言をされました--。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」と。イエス様の物語以外に本当のいのちの物語はありません。神が私たちのために御計画されている人生を生きるには、イエス様を通して以外の方法はないのです。

パウロは、この点をコロサイ人への手紙の1:15~21で明確にしています。イエス様は全てでした。御子が万物を造り、万物は御子のために造られ、万物は御子にあって成り立っているのです。そして、神は御子の十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させてくださったのです。

このほかにいのちの物語はありません。神の歴史から切り離れたところに世俗史は存在しないのです。神は世俗の中でも今も働かれており、いつの日か全ての者が神にひれ伏し、神と和解する日がやってくるでしょう。それまでの間、私たちが本当に必要であり、求めるべきは全てイエス様のうちに見出すことができます。イエス様の招きを受け入れてください。イエス様の下で罪を免れ、いのちを取り戻してください。

讃美歌 501

祈り 愛情深い神様。あなたへの道を示すためにイエス様を送ってくださったことを感謝する適切な言葉は見つかりません。私たちが私たちの生活を、私たちの言動の全てをイエス様にならうことで、私たちの感謝の気持ちを示すための証しとすることができますように。

イエス様の御名により。アーメン。

アール・D・ラヴェンダー
テネシー州 プレントウッド

5月9日(水)

時 が き ま し た

聖書朗読 ヨハネ 17:1~5

イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください。」 ヨハネ 17:1

私はその時21歳 既婚の若者として人生初の伝道活動に就いていました。毎日、一日の任務として、病院と介護施設を訪問することから始まりました。ある時、ある年配の患者さんにおいとまを言う際に 私は手を延ばし、「一緒にお祈りしませんか」と尋ねました。その患者さんはちょっととまどった顔をし、微笑み、言いました「私はお遊戯をするにはちょっと年を取り過ぎていますよ!」と。患者さんは明らかに、私がお遊戯をして一緒に遊びませんかと思っているようでした。患者さんは、彼女の「お遊戯の時間」がもう終わっていることを理解していましたが、私がお遊戯をして許される年頃についての分別がついていないと思い込んでいたようでした。

英語のNIV(新国際)訳の聖書には、「時が来ました」という表現が7回出て来ます。この表現が用いられている場面では、それぞれ神の類まれな独特のタイミングの妙が描かれています。40年を超える私の伝道人生で少なくとも私が学んだことがあるとすれば、それは、第1に、自分自身が決めたタイミングは決して神の御計画されるタイミングではないこと。(けれど)第2に、神のタイミングはいつでも正しく、適切であること!です。

私はしばしば神に「今すぐにあれをしてください」「これをしてください」と期待します。しかし、神は多くの場面で、私が辛抱強く待つことを望まれているのです。そのような場面を幾度となく経験し、何年も経て後、私は神のタイミングを本当にありがたく思います!

『わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ』(イザヤ書 55:8)と主はお告げになっておられます。

聖歌 734

祈り 神よ。イエス様がそうだったように、私も人生におけるあなたの時に確信を持つことができますように。私が全てをあなたにお委ねできますように。

イエス様の御名によりお祈りします。アーメン。

ブルース・M・ヘンダーソン
ネバダ州 カーソンシティー

5月10日 (木)

この者たちのみならず

聖書朗読 ヨハネ 17:20～26

もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。 ヨハネ 15:10

今日の聖書朗読箇所は、この地上での一生を終えようとされているイエス様のとりなしの祈りの場面からです。私たちは、友人や愛する者の最期のことばを熟考するものですが、主の最も長い祈りとして記録が残っているこの祈りもやはり熟考せずにはいられないものでしょう。

イエス様はこの場面で、直ぐそばにいる使徒たちのためにたくさんの祈りを捧げています。しかしそれだけではありません。イエス様は、使徒たちのことばを通してイエス様を信じる者たちのためにも祈りを捧げています(ヨハネ 17:20)。

イエス様がここで祈られている者とは、あなたや私なのです！イエス様はある時こう言われました。『シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。』(ルカ 22:31～32)。

イエス様が、特別ペテロのためだけにお祈りを捧げられたという事実は、どれだけペテロを勇気づけたことでしょうか。しかし、ペテロのために祈りを捧げられたのと同じイエス様が、私たちがまだイエス様に従う前に、既に私たちのためにお祈りを捧げてくださっていたのです。そして、イエス様が、福音に従う前の私たちのためにお祈りを捧げてくださっていたのであれば、今この時にも御父の前で私たちの名前を負ってくださっていると主張するのは拡大解釈ではないでしょう。イエス様はクリスチャンのために『いつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。』(ヘブル 7:25)。

讃美歌 38

祈り 主よ。私たちに「あなたの御臨在を实践する」こと以上のことなどできないと思う謙虚な信仰者の態度をお与えください。

仲裁者であるキリストを通して。アーメン。

ロバート・W・ローレンス
ネブラスカ州 ヨーク

5月11日 (金)

行間の希望

聖書朗読 ヨハネ 18:18～32

というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。 テモテ 1:12

今日の力の編集者から、「今日の聖書朗読箇所から『希望』をテーマにした読み物を書いてくれませんか？」と提案されました。正直言って、この箇所を『希望』に結び付けて書くのは容易ではありません。この任務を与えられ、心ならずも奮闘を余儀なくされましたが、その奮闘の甲斐あって、私は自分の内に希望を新たにする機会が与えられました。

私たちは人生を歩む中で、他人や出来事が私たちが求めるものを邪魔しようとしているのではないかと思う時があります。それが深刻に思える時、私たちは気落ちし、絶望さえ感じ、どのような素晴らしい結果も起こらないのではないかと悲観します。私自身もこのような時を経験し、投げやりな気持ちに任せて過ちをおかし、物事を投げ出したり、後から後悔するような発言をしたことがありました。これは絶望に支配された結果でした。

イエス様がこのような状況に置かれたら、どのように物事を切り抜けて行かれるのでしょうか？ イエス様はそのみこころの中で物事を解決されました。イエス様は、ご自分が何を望まれているのかをご存知でした。イエス様は、『この杯が過ぎ去る』ことを望まれましたが、それ以上に、『わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください』と望まれたのです(マタイ 26:39)。ここに真の希望があります。

私たちには、私たちが置かれている状況がどのように収束するのか分かりません。私たちは、恐れ、落胆、絶望と闘わなくてはならないかもしれません。しかし、私たちは「わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください」ということばに表された希望をもた知ることができるのです。事実、私たちが己の無力さに気がつく時こそ、神の御力が発揮されるのです。

聖歌 450

祈り 愛する主よ。人生において落胆するような時が訪れることもあると理解します。できればそのような時がやってこないようにお祈りします。しかしそれ以上に、天の御国でそうあるように、私の人生においてもあなたの御心がなされるようにお祈りします。私の無力さはあなたの力により満たされるということを覚えるよう助けてください。

イエス様の御名を通して。アーメン。

リチャード “リック” ホール
テキサス州 ノースリッチランドヒル

5月12日(土)

主よいつですか？

聖書朗読 使徒 1:6~11

あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。 使徒 1:11

あなたは 数ある世界の終りの日の予言をいくつかでも覚えていますか？ 悲しむべきことに、これらの予言を信じる者の中には、仕事を辞めてしまう者もいるなど、所有物や財産を放棄してまで「世界の終焉」に備える者もいるのです。予言者は、自分の設定した日に世界の終焉が起こらなくても謝ることすらありません。ただ、新しい「世界の終りの日」を設定しなおすだけなのです！

使徒たちは、イエス様がイスラエルの過去の栄光を再び取り戻してくださるのだという思い違いをしていました。イエス様は、彼らの思い違いを敢えて正すことはされませんでした。ただ『いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。』（使徒1:7）と言われました。イエス様が天に上って行かれる時、白い衣を着た人がふたり、イエス様が天に上って行かれるのを彼らが見た時と同じ有様でまたおいでになることを告げました。パウロは、テサロニケ第一の4章にキリストの再臨をより詳細に記述しています。しかし、私たちにはそれがいつのことかはいまだに分かっていません。

使徒たち同様、私たちにも好奇心があり、主が再び戻られる時がいつであるかを知りたいと思っています。しかし、知り得ることができない以上、私たちは日々いかなる時もイエス様の栄光ある再臨に備えたいものです。

讃美歌 316

祈り 愛する主よ。あなたの再臨の日時を知らないことは恵みであると理解します。もし知っていたら 終わりの日の直前まで悔い改めを引き延ばし、あなたのために一日一日を過ごす恵みと喜びを逃してしまうことでしょう。

イエス様の御名によりお祈りいたします。アーメン。

H・グレン ボイド
アーカンソー州 サージー

5月13日(日)

定着したニックネーム

聖書朗読 使徒 4:32~37

主よ。あなたは私たちの真中におられ、私たちはあなたの御名をもって、呼ばれているのです。 エレミヤ書 14:9

キプロス出身のレビ人であったヨセフがその名を使徒たちによって変えられた後、その新しい名はずっと定着しました。1世紀の教会の刺激的な物語の間中、ヨセフは「バルナバ——慰めの子」と呼ばれました。

キプロス出身のバルナバのこの好意的な紹介の後、次にバルナバが登場するのは、クリスチャンを弾圧する側から信じる側に転向したタルソのサウロの名で恐れられていた男の支援者になることを選ぶ場面においてです（使徒9:26-28）。バルナバの足跡をさらにたどると、彼がまたしても、パウロがマルコという若者の以前の行動から伝道旅行には連れて行かない方が良くないと判断する場面において、マルコを支援する側にまわる姿に出会います（使徒15:36-40）。バルナバの励ましは、物質的な物を分かち合うという面と、時間を費やし、心遣いを見せるという精神的な面の両方でした。それは、創成期にあった教会に永く重要な影響を与えたのです。

使徒ははたしてあなたにどのようなニックネームをつけるのでしょうか？

私のいのちを、
ただあなたのためだけに用いてください。
毎日、そして毎秒、
あなたを絶えずたたえるために費やしてください。
—— フランシス・ハヴァーガル

讃美歌 332

祈り 主よ。私たちがイエス様の御名により知られるようになったことに感謝します。あなた様が与えてくださった名に栄光のみをもたらし、恥をもたらすことがないように助けてください。

イエス様の御名の内に。アーメン。

クリス・フリゼル
テキサス州 グランベリー